

鹿大広報

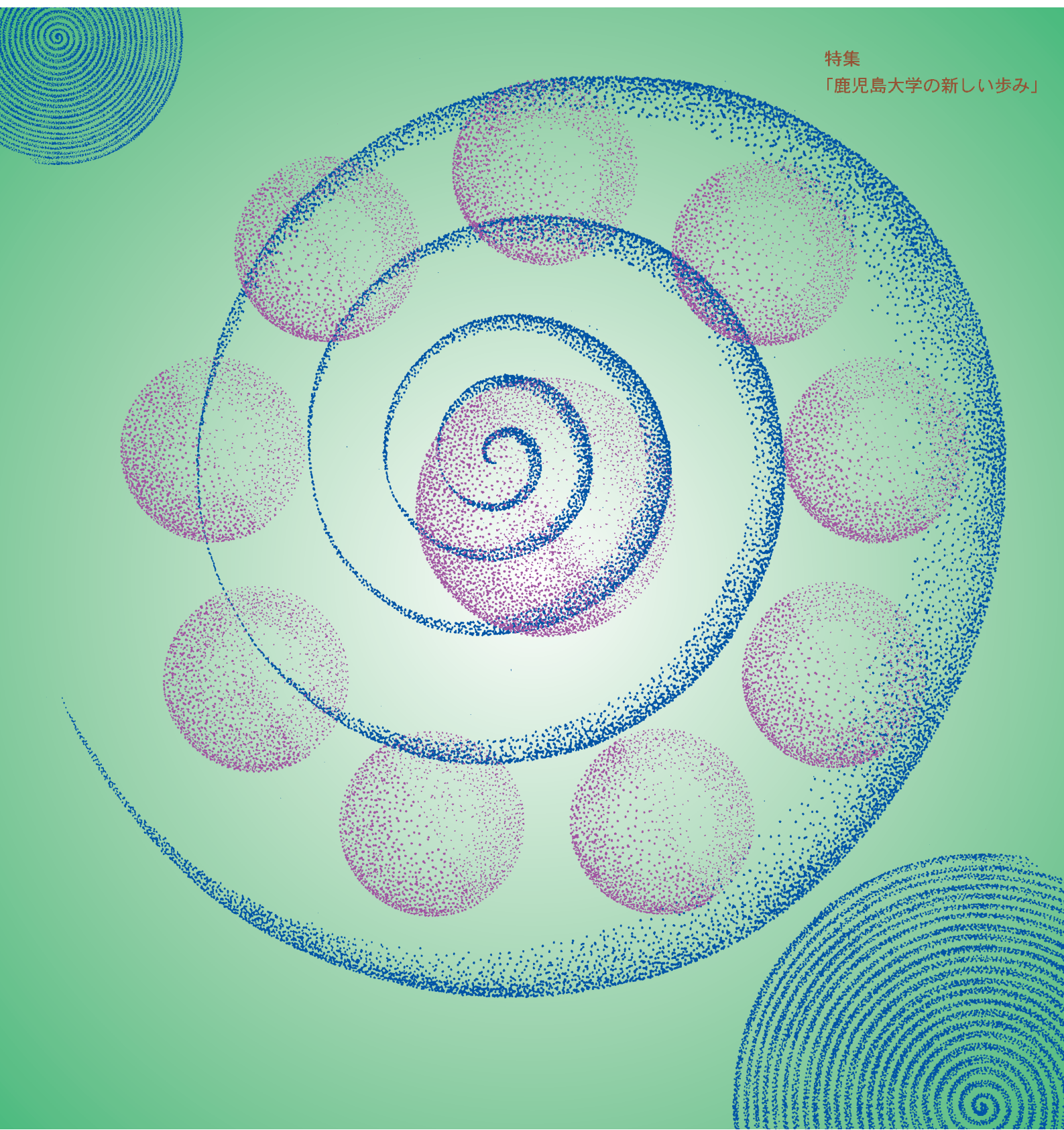
No.145

Sep/1997

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会

特集

「鹿児島大学の新しい歩み」



目次

特集 鹿児島大学の新しい歩み

動き出した改組後の鹿児島大学.....	学長	田中 弘允.....	3
今、学生は.....	学生部長	辰村 康.....	4
新生法文学部	法文学部長	石田 忠彦	5
新しい時代の教育学部を目指して	教育学部長	島田 俊秀	5
新しい理学部の4学科体制と将来構想	理学部長	堀田 満	6
医学部における教育	医学部長	大井 好忠	6
歯学部の方向	歯学部長	笠原 泰夫	7
工学部の改組後の取り組み、組織の内容及び目標とするビジョン	工学部長	赤坂 裕	7
農学部の新しい歩み	農学部長	堀口 毅	8
水産資源の持続的・高度利用について教育と研究を進める水産学部 ...	水産学部長	茶園 正明	8
3年制医技短から4年制医学部保健学科へ	医療技術短期大学部部长	銚之原 昌	9
共通教育の新しい歩み	共通教育委員会委員長	十島 雍蔵	9
共通教育への期待	法文学部 助教授	平井 一臣	10
共通教育を担当して	教育学部 教授	中山 右尚	11
教養科目は「教養科目」.....	理学部 教授	酒井 幸吉	12
鹿児島大学の新しい歩み	医学部 教授	平川 忠敏	13
共通教育へ期待すること	工学部 助教授	近藤 英二	14
あまり知られていない獣医師の仕事	農学部 教授	阿久沢正夫	15
鹿児島大学の新しい歩み	水産学部 教授	松田 恵明	16

新入生のことば

鹿児島大学に入って	法文学部 法政策学科	坂上 学	17
夢 の 種	医療技術短期大学部 作業療法学科	工藤 安澄	17

学内だより

保 健 う つ 病	上山 健一	18
留学生日記		
Kagoshima University Student Life is in My Heart Forever		
..... ジャリル モハマド アブドゥル		19
私の歩み	付 子勲	20
図書館だより		20
研究室紹介 歯の顎のディスクレパンシー	伊藤 学而	21
新任教官紹介		22
就 職		24
インターネット情報		26
編集後記		26

表紙デザイン

鹿児島大学が構成している各学部や施設を軸に、地域社会に貢献し、広がって行くあり様を渦巻によって表わした。

教育学部美術教育 構成デザイン教授 永松實夫



田中学長

動き出した改組後の鹿児島大学

学長 田中弘允

鹿児島大学は、改革によって教育・研究のシステムや内容が一新され、平成9年4月1日をもって新しい鹿児島大学として発足しました。4月8日には入学式が行なわれ、2000余名の若者を迎えることができました。新入生は、入学当初から各学部にも所属し、共通教育を受けています。学生の人間形成の上で全学生に共通して重要な共通教育は、全学部の教官が鹿大の全学生の教育をになうという全学出勤方式で実施されています。本学には文系から理系にわたる8学部がありますので、幅広いそして奥深い充実した教養教育が行なわれます。共通教育の計画等については共通教育委員会と事務局庶務部企画室が精力的に活動しています。新しい制度としての一貫教育がとり入れられ、また各学部の専門教育もそのシステムやカリキュラムが改変されたので、ここで改めて共通教育のあり方についての十分な討論がなされることが今後の鹿大の発展にとって必要不可欠であると思われる。

またそれぞれの学部においては、前教養部教官をメンバーとして迎えて新たな教官の組織づくりがなされ、教育、研究ともに活動が開始されています。学部教官が増したということだけでなく、質的な変革が行なわれることが強く期待されています。

一方、最近の鹿大の大きな動きとしては、全学をあげての学際的なプロジェクトチームによる研究の発足があげられます。そしてこれは鹿児島地域のニーズへの対応の1つであり、しかもその期待される成果には日本全国や全世界へ情報発信されるべきものが含まれます。

その例として、さる3月26日に川薩地方を中心に行った鹿児島県北西部地震の調査団の結成と活動があげられます。これは、理学部

を中心に工、農、教育の各学部の震災に関する教官19名で結成されたもので、活発な活動を続け、調査結果を逐次報告し、社会に貢献しています。

また、今世界的にも注目を集めている有機農業を軸に、健康や環境などの総合的な研究プロジェクトを発足させることを決めたこともあげられます。農学部を中心に全学部より研究者が参加した学際的研究であり、地域への貢献や個性化した鹿大づくりなどの意義があります。鹿大のみでなく広く県民、学外の団体、機関から多くの協力の声があがっており、大きな期待がよせられています。

その他地域に開かれた大学としての動きには、多くの教官がMBCのテレビ通りで「ストレスって何？」に出演して、市民への教育的情報を提供しつつあることがあげられます。これは、秋から始まる「九州地区放送公開講座」と関連した番組であり、好評を得ています。

また、上野原遺跡の発掘、出水市土石流災害、離島と結ぶ医療ネットワーク、地域中小企業への技術相談、特老ひまわり園訪問などで地域に開かれた鹿児島大学としての大きな役割を果たしてきました。その他の研究では、人間地球系シンポジウム、スペースVLBI計画、宇宙通信セミナー、マンモス再生、臓器移植、受精卵診断、成人T細胞白血病、日本国憲法などに関する鹿大の活躍が注目を集めました。

鹿児島大学は今大きく動き出しました。21世紀へ向けて鹿児島をはじめとする全世界へ大きなインパクトを与えることのできる大学、人間性豊かで生き生きとした地球人を育てる大学を目指してさらに前進したいと思います。

今、学生は

学生部長 辰村 □ 康



辰村学生部長

大学改革において、学生部長として絶えず念頭に置いてきたことは、学生の視点に立った改革でなければならないということであった。学生の視点に立った大学改革という場合、少なくとも、その時々における学生が何を考え、何を要求しているか、いわゆる学生のニーズを、大学側がいかに的確に把握できるかが重要となる。「学生」のとらえ方いかんによっては、改革の座標軸も方向も異なってくる。今日の学生像については、我々教官自身が自らの経験の下で抱いてきた学生とは、根本的に変質しているし、その変化は今後も続くであろう。

学生像の変化の大きな原因としては、まず18才人口の減少や大学への進学率の増加という社会状況の変化があげられる。18才人口減少の側面だけを見れば、必然的に大学淘汰の時代が来る。まず特徴と魅力を持たない大学から志願者が減少する。その意味では国立大学といえども、その魅力づくりに努力し、生き残りを図らなければならない。「入れる大学よりも入りたい大学」の理想が求められる。

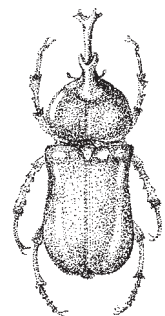
次に進学率上昇の面から見れば、大学生はもはや社会のエリートではなくなった。同年人口の過半数が大学に進学する時代となり、なんとしても学業を成就し、行く末は社会のリーダーとして世に巣立っていくという目的意識に支えられた学生ばかりではない。むしろ大学というものを、長い人生の一種の通過ポイントと考え、気に入らなければやめていくか、そうでなくともダブルスクーリングを目指す学生が増えてくる。自分達の大学は自分達で守ろうという気概を持った学生も少なくなっていくであろう。

学生像の変化の次の原因は入試制度の変化とそれによる学生の種類の変化であろう。平成9年度入試から、国立大学は分離分割方式に統一され、鹿児島大学でも全学が足並みをそろえることになった。一般入試における前

後期制、センター試験を課す推薦入試と課さない推薦入試、中国引揚者等子女及び帰国子女の特別入試、私費外国人学部留学生の入試等、今日の入試制度は複雑であり、それだけにそれぞれの入試によって選抜され、入学してくる学生は多種多様となる。

大学が多種多様な学生の混在を前提とするならば、学生のニーズも多様であり、その時々に変化していくものであることを前提としなければならない。そのような状況下で、学生にとって魅力ある大学をつくり、教育の中味を充実させていくには、絶えず大学が自己点検評価を繰り返し、時代に適応した大学づくりを模索する必要がある。場合によっては中学・高校が苦心してきた生徒への生活指導に、大学が真剣に取り組まなければならない時代も来るであろう。

しかしそれもこれも、基点となるものは、学生あつての大学という発想であり、多様な学生のニーズを的確に把握し、それを実行しうる体制を整えておかななければならない。予算の伴う施設整備等については、国や大学全体としての努力に待つとしても、教育や学生生活の充実については、教官ひとりひとりが、従来になく大学の使命である厚生補導も含めた「教育」の在り方を考え、努力していくしか方法はなかるう。



新生法文学部



法文学部長 石田 忠彦

平成9年の4月から法文学部は法政策学科・経済情報学科・人文学科の3学科によって構成されることになりました。教員も120名を越す陣容となり、従来よりも多分野に涉る教育や研究が行なわれています。学生はどの学科に所属していても、他の学科の授業も受けられるようにカリキュラムが組まれていて、総合的な教育を受けることが可能です。

学科ごとの教育目標を挙げてみますと、「法政策学科」は、伝統的な法解釈能力・紛争処理能力に加えて、地域の諸課題に応える政策立案・遂行能力や実践的な法的交渉能力を教育しようとしています。「経済情報学科」は、情報化・国際化の進行とともに地域に生じる課題を的確に把握し、それらに現実的に対応できる能力を備えた学生の育成をめざしています。「人文学科」は、現代の人文諸科学の成果をふまえたうえで、ますます複雑化し多岐に涉って展開している人間文化の諸相を教育研究し、高度情報化社会に対応した文

化的創造的人材の育成を目的としています。これらの教育目標は、一言でいえば、時代や社会の要請に対応できる、高度の専門的知識と職能をもった職業人の育成をめざしているということになります。

法文学部の卒業生はこの3月で1万人を越えました。その人達は法文学部で学んだ知識や職能それにここで培った人間関係などを活かして、九州全域はもちろんのこと、関東地方でも関西地方でも活躍を続けています。特に地元での活躍には目覚ましいものがあります。これらの先輩達からはいろいろの刺激を受け、また教員スタッフからは学問的教育的薫陶を享けて、法文学部の学生は自分達の未来を明るく切り開こうと日々充実した学生生活を送っています。

鹿児島大学でただ一つの文科系学部として、その与えられた責任を果たすべく、文科系学部の特徴を活かした教育研究活動が行なわれようとしています。

新しい時代の教育学部を目指して



教育学部長 島田 俊秀

教育学部の歴史は古く、明治初期に遡ることができます。明治政府は「必ず邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」という理想のもと、明治8年5月に小学校授業講習所を創設し、翌9年には鹿児島師範学校と改称され、爾来師範学校は、幾多の変遷を経て戦後鹿児島大学教育学部に受け継がれました。教育学部は、国民の知的水準の向上と文化の発展に積極的に寄与できる教員の養成に責任をもつ学部として、多くの有為な人材を世に送り、鹿児島県の教育研究界はもとより広く各界に貢献してきました。

また、平成6年度から大学院教育学研究科（修士課程）が開設され、教育研究や教員養成の機能を高めるとともに、現職教員の受け入れと資質の向上に尽力してきました。

ところで、昨今の社会の急激な変化や青少年のさまざまな問題行動の発生は、新しい時代の資質を備えた教員の養成が求められています。教育学部は、これらの社会の要請に応えるため、平成9年度から、教員養成課程を

学校教育教員養成課程（これまでの小学校、中学校、特別教科の3課程を統合）と養護学校教員養成課程とし、カリキュラムの充実をはかるとともに履修方法を改善して、複数の教員免許状の取得を可能にする等、教育現場の諸問題に適切に対応できる教師の養成を目指しています。

さらに、高齢化社会、国際化社会の要請に応えるため教育学部の特徴を生かしながら学校教育に留まらず、国・地方公共団体等の職員を始め諸種の職場で広く活躍できる新しい時代の指導者の養成を目指して生涯教育総合課程（地域社会教育専修、国際理解教育専修、健康教育専修）を創設しました。

教育学部は、新しい時代の教師・指導者を養成するために相応しい附属施設として、附属諸学校（幼稚園、小学校、中学校、養護学校）、寺山自然教育研究施設、教育実践研究指導センターを設置しており、これらの施設の研究の機能の充実と向上に努めています。

新しい理学部の4学科体制と将来構想

理学部長 堀田 満



思いもかけない北薩地域での2回の大きな内陸地震、出水市針原地区での地滑り土石流災害など、火山と美しい自然に恵まれた南九州はまた、日本有数の自然災害地域でもあります。この地域で唯一の基礎自然科学系学部である理学部は、「宇宙から地域での自然災害まで」を視野に入れて新しい教育と研究の学部として大きく変わりつつあります。

理学の学問的基盤を作っている数学は数理情報科学科としてまとめられ、数学の基本構造はもとより、諸科学との交流により多様化をみせている数理科学及びその関連分野、更に情報科学の諸分野の教育、研究を有機的に行う体制になりました。(数理構造、現象数理、情報数理の3講座)

自然科学及び科学技術の基礎を形成している物理学は、物性物理学の理論と実験分野を強化すると共に、宇宙探求の最先端技術とも結びついているような領域を設定し、新しい飛躍を目指します。(物性理論、固体物理、宇宙情報の3講座)

化学と実験系の生物学は統合して、21世紀に大きく発展すると予想される領域、複雑な構造の物質の研究と生命現象の研究を総合したような研究教育を行う生命化学科を形成しました。(分子機能化学、有機生化学、生命機能の3講座)

そして地域の自然と人間生活を問題にしながら「地球でのヒトと自然の共生」を探る地球科学、分析化学、野外系の生物学から構成される地球環境科学科が設立されました。(地質科学、島弧火山、環境解析、多様性生物学の4講座)

近い将来、この新しい理学部4学科構成を基礎に大学院研究科も再編成される予定です。工学研究科と共同しての博士課程研究科として構想されている「理工学研究科」は、科学・技術の基盤を担う有為な人材を教育する場になることが期待されております。

新理学部は、現代科学の展開に対応するとともに、地域の特色を生かし成長する、活力ある学部改組再編されたのです。

医学部における教育

医学部長 大井 好忠



全国的には遅れましたが鹿児島大学の組織改革は平成八年度で完了し、平成九年度からは教養部は廃止され医学部では六年一貫教育が実現します。教養部から四名の教官と外国人教師一名が移籍され医療総合科学講座が作られました。これらの教官は医用工学、心理学、医倫理学を日本語のみでなく外人教官には英語で教育して頂くことを希望しています。新生鹿児島大学のスタートにあたって医学部でも多くのことを検討中であり、従来から何回となく医学教育ワークショップを繰り返し、豊かな人間性の入学生を選出する方法論を求めて来ました。現代の医師・医学研究者はモラルの確立した、インフォームド・コンセントの出来るひとが要求されているからです。さらに医学部進学動機づけの観点から、学士入学を検討中であり、編入年次、人数、試験方法などにつき具体的に検討中であり、

四月から火曜日には六学年すべての医学部生が桜ヶ丘キャンパスで学習します。一年生

は教養課目だけではなく、早く医療の現場を体験し、勉学の意欲を向上するために検診者同乗、看護体験、老健施設訪問をおこないます。二年生は後半から基礎医学の講義が始まります。医学教育の中で臨床実習は最も大切で五年生から六年生前半におこなわれていますが、医療法で許される範囲、アメリカ方式で徹底的に実習することが望まれます。臨床概説は従来方法から、さらに効率よく、器管別に統合カリキュラムが検討されています。医学部の教育においても、問題解決型の方法論を確実に取り入れることが必要です。入学試験以前の記憶力偏重、受動的勉学を捨て、自ら能動的に、積極的に発言できる、しっかり考えて問題解決ができる、医学用語を日本語でも英語でも正しく話せる医学生が育っていくことが理想でしょう。そのためには、人間性に富み、協調力のある、心身健康な医学生に患者の痛みが理解できる教育をし、疾患に挑戦する科学する心を高揚させたい。

歯学部の方角



一般教育の実施主体であった32年の歴史をもつ教養部が発展的改組に伴いその幕を降ろした平成9年4月1日は、私共の学部にとっても正に歴史的な日であった。この理由は、私共医系の学部が考える大学を卒業させる価値あるいは大学教育でなければならぬ意味は、単に今後は医療の世界に職業人として飛び込んでゆける基本的能力を身につけさせたと云うだけではなく、現世の森羅万象すべてに対し大学で学んだだけの見識を發揮できる能力を習得させることをも含んでおり、これが将来の良い研究者・教育者を包含する良質の歯科医療人の卵を社会に出す正道であると信じているからである。

一般教育を担当する責任部局がなくなることは、私共の学部にとっての教育に関し根本から考え直す必要のある衝撃的で悲しい出来事であった。不幸中の幸いであったのは、この改組に伴って私共の学部にも歯科基礎科学講座が新設されたことである。この講座の持

歯学部長 笠原 泰夫

つ役割は歯学部学生に対しては一般教育について他の学部にも所属する先生方の協力を得ながらその企画・立案・実施の主体として、また専門教育との懸橋となるオルガナイザーとして、更には歯学部の専門教育を十二分に加味した新しい意味での歯学部の独創的な一般教育とこれに附随する研究領域の確立を、全国国立大学歯学部にも設置された只一つの講座として模索することである。これに加えて大学院歯学研究科の博士課程と歯学部の最終学年の専門教育課程の一体化、ならびに相互乗り入れなどを念頭に置いて歯学部の今後の方向を鋭意模索中である。

以上の様な改革が現実のものとなり実施された場合、私共鹿児島大学歯学部を卒業した学生の持つ資質は大変高くなることが予想され、有能かつ学問的にも優秀で人間としても魅力的な極めて良質の歯科医療人を社会に送り出せるであろうと確信し、その実現のため全力を傾注しているところである。

工学部の改組後の取り組み、組織の内容および目標とするビジョン



平成9年度に工学部に生体工学科が新設された。機械工学科、電気電子工学科、建築学科、応用化学工学科、海洋土木工学科、情報工学科に生体工学科が加わって7学科編成となった。情報工学科の学生定員が20名増え、工学部の入学定員は500名になった。

教育面での改良点としては、新入生向けに物理学の補習教育を導入したこと、4年一貫教育体制を整備したこと等があげられるが、今後4年一貫教育を維持し一層充実させていくためには、全学的に共通教育の維持体制を整えることが急務であろう。

入試制度の面では、これまで編入学は高専のみを対象としていたが、平成9年度より、学力による選抜では出身学科を問わないことにした。また編入学制度を推進するため、編入学生の定員化を計画しているところである。

工学研究科では博士前期課程の学生定員を大幅に増やして1学年の定員を138名としたが、それでもなお大学院への進学者は定員を

工学部長 赤坂 裕

上回っており、学部学生のほぼ3人に1人が大学院に進学している状況である。いっぽう留学生の大学院への入学者数も増加し、かつ安定してきていることから、大学院に留学生の定員枠を設けることを計画している。なお後期課程は平成6年度に新設され、平成9年3月には第1回の博士(工学)取得者が23名誕生した。研究科における次なる充実目標は工学研究科を理工学研究科に発展させることであって、この問題については理学部と協力して準備を行っている。研究施設面では、平成9年度の秋に約4500㎡、7階建ての工学研究科棟が着工になる予定である。

大学設置基準の大綱化に伴い、鹿児島大学はこれまで段階的に組織改革を推進してきたが、今後、組織の点検・評価を前提とした更なる改革が要求されている。このような改革は全学的な協力なくしては達成できない。工学部は、今後とも全学的な改革との調和をとりながら、学部としての改革を推進していく方針である。

農学部の新しい歩み



農学部長 堀 口 毅

農学部は今春、学科の名称はそのままに、獣医学科を除いた3学科の教育コースを一新しました。遠い過去から人類の生存を支えてきた農学の歩みは、人間が他の生物とともに、環境との調和を保ちながら生存すべきであること、地球上の物質循環は生物を媒介として初めて可能になることを教えてくれます。近年、農学の分野では、国際化とともに、バイオテクノロジーと呼ばれる生物の優れた機能を利用した新しい技術の開発や新技術に立脚した新産業の開発も進められるようになりました。今回の改組は、このような過去から未来につながる農学の歩みをさらに推し進めたものです。

新「生物生産学科」は、最先端技術を駆使した動植物の改良・生産から、農産物の貿易まで、衣食住の根幹にかかわる分野の教育研究を行います。新「生物資源化学科」は、地球表層、生物資源と生命機能を有機的に結び、化学、生化学、バイオテクノロジーを活用し

て、高品質で、安全な食糧、食品、機能性素材の開発にかかわる教育研究を行います。新「生物環境学科」は、大量消費、大量廃棄型ではない持続可能な循環型社会の実現に向け、人々の生活の向上、農林業と関連産業の発展を促すための基礎から応用にいたる教育研究を行います。「獣医学科」は、動物の健康を保持するための病気の原因や予防・治療ならびに、人類が健康な生活を営むために必要な食品や医薬品及び環境の安全を確保するための教育研究を行います。

本学部の教育は、これからの社会の要請に応える人材、すなわち、知識のみに片寄らず、自然、特に生物とのふれあいによる豊かな人間性と、実験、実習を通して得られる、実践的、創造的能力を備えた人材の育成をはかります。本学部は、このような教育を可能にする、恵まれた自然環境と農場、演習林、家畜病院などの附属施設も備えています。

水産資源の持続的・高度利用について教育と研究を進める水産学部



水産学部長 茶 園 正 明

水産学は魚類を始めとする水産資源を持続して高度利用していくための総合科学、複合科学であり、人類の生存に直結した食糧と地球の環境問題を取り扱う学問分野です。鹿児島大学水産学部は日本の南に位置する大学として、視野を広く南方に向け温帯域から熱帯域の水産学の教育と研究を充実させ、人材養成と生涯教育による地域社会への貢献並びに留学生の教育、国際学術交流・技術移転による国際貢献を推進して行きます。

三つの教育コースで行います。より高度な専門教育は大学院水産学研究科（修士課程）で行います。更に博士課程に進学する者には連合農学研究科水産資源科学専攻があります。また、漁業の高度技術者を養成する学部卒業後1年の水産専攻科があります。学部、大学院水産学研究科での教育は講義、演習のほか実験室及び付属施設である練習船、水産実験所での実験、実習が組み入れられています。

水産各分野の教育研究の高度化に対応する
教官組織の再編

これまでの19小講座を環境情報科学、漁業基礎工学、海洋社会科学、資源育成科学、そして資源利用科学の5大講座に再編しました。教官数は十分ではありませんが、大講座の良さを取り入れ、教官と学生が密着した実効ある教育と教官相互の連携による高度な研究を進めて行きます。

水産学部の新しい歩みの要点は以下の通りです。

地球的視野で水産資源と環境保全を考える
水産人の養成

水産学科、水産教員養成課程では広く水産に関する基本的知識を教授すると共に専門分野の教育は水産総合、水産環境、水産資源の

3年制医技短から4年制医学部保健学科へ

医療技術短期大学部部长 銚之原 昌



医療技術短期大学部は、鹿児島大学では最も新しい学生の養成機関です。昭和61年に創設されましたので、今年度12期生が入学しました。3年制の短期大学部ですが、看護学科80名、理学療法学科20名、作業療法学科20名の3学科で120名の定員です。さらに、3年制の看護学科や看護学校を終えた学生が進学する1年間の専攻科も併設され、助産学特別専攻20名、地域看護学特別専攻20名が毎年入学しています。それぞれの課程を終えると国家試験があり合格すると、看護婦(士)、理学療法士、作業療法士、助産婦、保健婦(士)の資格を得ることが出来ます。

わが国は高齢化と少子化が進み、国民の生活の中で保健、福祉、医療は多様化して急激な変化が進行しており、医療技術の進歩も顕著であります。そこで、医療も全人間的な健康の維持と病気の回復を目指しており、チーム医療が求められています。したがって、医療スタッフの質の向上、数の充実が社会的に要請されており、全国的に医療技術系の大学

が新設されています。

国立の医療技術短期大学部は23校ありましたが、5年前から4年生の医学部保健学科へ数校が転換移行されております。本短期大学部も数年前から準備を進め、医学部保健学科として計画しております。本学科になりますと、医技短の看護学科と2専攻科が統合され看護学専攻となり、理学療法学専攻と作業療法学専攻の3専攻となります。

保健学科になりますと鹿大生としての共通教育を受け、専門教育を進めていくことになります。3年制よりも教養教育、情報教育、語学教育が充実し、専門教育もスタッフが多くなりより広くより深くなりそしてユニークな医療技術教育も可能となります。

社会では、医療技術者がまだまだ不足しておりその要望に応えるべく、優れた専門職を送り出すと同時に、将来大学院を設置しこれらの分野で遅れている学問的発展のために研究者や教育者も養成していくつもりです。

共通教育の新しい歩み

共通教育委員会委員長 十 島 雍 蔵



オウム真理教のような社会的事件が起こるたびに、大学教育における幅広い知識や豊かな人間性の涵養を担う教養教育の重要性が声高に云々されます。また、科学技術の急速な進歩に伴って、それがもたらすプラス面の裏側で、環境破壊や、人間と生命の尊厳を脅かすような重大な諸問題に直面するようになり、人類の知恵として、緻密な論理的思考力や分析能力ばかりでなく、広い視野と総合的な判断力を培う必要性が時代の要請として益々高まっています。

鹿児島大学では、昭和40年の文理改組以来ほぼ30年間、一般教養教育は入学して最初の1年半(または2年間)教養部に所属して学ぶことになっていました。大学教育におけるこの教養教育と専門教育の二重構造の弊害を解消するために、平成3年の大学設置基準の大綱化を受けた全国的な大学改組の流れの中で、本学でも平成9年度から教養部を廃止し、それに代わる実施の責任組織として鹿児島大学共通教育委員会を設置して、4(6)年一

貫教育を全学体制で実施することになりました。

本学の新しい教育は、共通教育(一般教養教育)科目、基礎教育科目、専門教育科目の三本柱に区分され、その内、共通教育科目は、教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目、および外国人留学生のための日本語・日本事情科目で構成されています。

本学は8つの学部からなる総合大学ですので、その特性を活かして、従来の伝統的学問体系に根差した個別科目だけでなく、特定の今日的テーマを中心とした主題科目や学際的な視点から複数の教官が共同して授業する総合科目、それに専門教育科目の一部を「開放科目」として開講するなど、共通教育の内容の高度化と多様化が進められています。

また、自己点検・評価によって、各学部の専門教育と有機的にシステム化しながら大学教育の一環として共通教育がさらに充実するように努めています。

共通教育への期待



今から3年前、同じ『鹿大広報』に、教養部の教務委員として新しい共通教育について執筆した。「新しい」にルビをふったのは、昨年度から現行カリキュラムが導入された結果、私が解説したカリキュラムも今では「旧」に属するものになってしまったからである。ここ数年間の共通教育の目まぐるしい変化に戸惑っているのは私ばかりではないだろう。また、共通教育の教育内容について一体どれだけの検討がなされたのか、組織改革に忙殺され教育の中身に関する検討はおろそかにされてきたのではないのか、と感じている教員も少なくないと思う。

教養部が解散したことにより、今後共通教育が形骸化しはしまいか、というのが現在の私の率直な心境である。こう言うと「共通教育」のどこがそんなに重要な？という批判の声が聞こえてきそうである。しかし、私自身は、以下の三つの点で共通教育に期待を抱いており、したがって、これからの共通教育の運営のために全学的にもっと知恵を出し合っていくべきだと考えている。

まず第一に、《刺激しあう場》としての共通教育。共通教育は、色々な学部、学科の学生が、勉学の場で相互の交流を行うチャンスを設けることができる。個人的な経験になるが、私は、教養ゼミ（1単位）を開講してきた。不思議なもので、受講生が同じ学部学科の学生だけの場合より、文系・理系取り混ぜて、ごった煮状態のゼミの方が遥かに活気のあるゼミとなった。とくに大学に入学したばかりの学生にとっては、自分と違う学部学科の学生の考え方や興味の持ち方が、しばしば新鮮に見えるようであり、教員があれこれと教える以上の知的刺激となる場合もある。サークル活動でそういう場があるじゃないか、との意見もあるかもしれないが、やはり勉学の場を提供する大学が、積極的にそうした機会を作り出していく必要があるだろう。

法文学部 助教授 平井 一 臣

第二に、《問題発見の場》としての共通教育。入学当初の学生の多くは、勉強というと先生から教わるものという発想から抜け出していない。自分で物事を考え、手探りで問題の解決方法を探り当てていくこと。これは、専門教育においても当然要求されてくることだろうが、様々な授業科目が準備されている共通教育を通じて、「へー、こんな問題を、こんなやり方で考えている人もいるのか」と感じとり、さらに「自分ならば、どう考えるのか」という思考の訓練を行うことができるだろう。

第三に、《位置をさぐる場》としての共通教育。現代社会は非常に複雑に入り組んでいる。たとえば、環境問題一つとっても、自然科学だけではなく、人文、社会科学の素養が要求される。様々な学問領域に関わる科目が準備される共通教育を通じて、自分がこれからやりたいと考えている領域が、他の学問領域とどのように関連しているのかということや、自分がやりたい領域も含めて、学問って意外なところで色々な結びつきがあるんだということを感じ取ることができるのではないか。

《人と出会い、問題と出会い、これからの自分の位置と出会う》場を提供するのが（提供できるのが）共通教育なのではないか、また、そうあってほしい、と私は考えている。以上私見ではあるが、これからの共通教育を構築していくにあたって参考にさせていただければ幸いである。



共通教育を担当して



共通教育を担当して2年目、主題科目の「江戸時代のこども絵本」という講義を担当している。受講生は主として法文、教育学部の1年生、124名。先日、夏休み前の授業のおわりに、わたしの授業も含め共通教育についての感想を受講生諸君に書いてもらった。

感想の項目は、受講してよかったと思う点、改善してほしい点、その他の要望、ということにして、無記名でメモ風に自由に書いてもらった。普段は出欠をとらないので、出席者は68名、全員が提出してくれた。欠席者の感想も大いに関心のあるところだが、それを聞くにはまた別の機会もある。

□ 受講してよかった点：大半の諸君が共通教育の美点として上げているのは、高校時代と違って自由に科目選択ができることである。高校では、定められた教科を一斉に学習するので、この自由選択は大いに新鮮で、心理学など高校にはなかった講義、既習の領域でも教師の設定した主題や領域をより深く追究する講義、学部を超えて総合的な追究がなされる総合講義など、学生諸君は高く評価している。新知識・知見、多様な観点・視点で、教師が個性的に展開する授業に満足していることがうかがえる。かれらの要求は、もっと多彩に選択できるメニューをとく、文系でも理系メニューをもっと受講できるようにとか、専門科目も学部を超えて自由選択にとかであり、この理念をかれらの方から押し広げていく印象がある。外国語などもコア、オープンとの区別ではなく、会話、作文、翻訳などの多様なメニューから選択していく方向も求めているとも思った。

教育学部 教授 中山 右 尚

□ 改善してほしい点：わたしの講義から報告しよう。導入として、目付け絵（相手が選んだ絵を言い当てる江戸中期の玩具絵本）の現代版を創作してもらったが、これは好評で、こういう作業やレポートを以後も、もっと取入た方がいいという意見がかなりあった。心したい。それからわたしは、毎回講義前半では、子供絵本と関係のないことながら、日本文学の詩歌をわたしの好みで選び紹介している。これは、おおむね好評だが、講義主題にそぐわないとの意見もあった。学生諸君は、このように毎回の授業を実に真剣に受けとめている。教科書の使い方、資料、板書、進度、話し方、叱り方、シラバスの書き方等々。だから、工夫のない授業、意欲の感じられない授業にはてきびしい意見が出されていた。授業に遅刻しがちなわたしも早速に叱られた。御もっともである。

□ その他の要望：多かったのは、クーラー設置の要望である。これは学生諸君に言われるまでもなく授業者のわたしが痛感している。それに、入学してはじめて大半の講義を受講するのが共通教育の施設である。いわば鹿大の顔がこの施設である。全学施設としてはもう建替えを急ぐべき時期ではなからうか。今の状態ではちょっと学生に気の毒な気がする。教室の構造、廊下と教室の配置、窓・ブラインド、空調、床、そして全体の景観など、気になるところは多々ある。

教養科目は「教養科目」



筆者は31年間旧教養部に在職していたことが幸いして、今も「共通教育等」にほぼ専念している。大学設置基準の大綱化に伴う一般教育の在り方の見直し議論に参加し、教養部廃止を含む組織改革議論にも前半2年間('94~'95)直接関わった。今年度('98年度まで)は教養科目専門委員会委員長として、共通教育委員会・カリキュラム委員会にも加わっている。正直言ってなぜか荷が重い。

さて、1996年度からスタートした「鹿児島大学の新しい教育」システムは、理念的には理解できても、特に「共通教育」については担当者の確保、予算措置など実施上多くの課題を抱え、廃止された教養部の「亡霊」もよく出没する。

共通教育は「教養科目」、「情報科学科目」、「外国語科目」、「体育・健康科目」、「日本語・日本事情科目」に区分され、教養科目以外の4科目の目的は比較的わかりやすい。一方、教養科目の目的は、共通教育履修案内p.2によれば「諸科学の基礎的な方法を理解し、人類が直面している諸問題を広い視野に立って明かにするとともに理論的な思考能力、分析能力を高め、総合的な判断能力を養うこと」になっている。日本国憲法前文を思わせる格調高い目的を掲げている。しかし、十数単位の履修を義務づけている教養科目の位置づけに照らせば、この目的は全くの空文とも読める。この高邁な目的に沿って開講される教養科目には、学生諸君は「賢者」になれると期待して授業に殺到するはず、担当者は「教育のスーパースター」として尊敬される。結構なことである。実際、300名を超える学生が押しかける名講義も散見できる。

しかし、ここには大きな落とし穴が潜んでいる。それはこの目的を達成するための有効

理学部 教授 酒井 幸吉

な教育の内容・方法は残念ながら確立されていなく、むしろ永遠の課題ではあるまいか。

上記の目的は、大学教育の『理念・目標』に格上げし、「教養科目」の目的は、「教養を深める・広める」ことを主旨とし、大学として応分の責任が果せるよう対応すればと思う。教養科目の開設基準は、例えば、

諸分野の学問・研究についての平易な紹介、これの今日的意義の解説、

地域、日本、世界、人類など各レベルで今日抱えている諸問題の提起と解説、

人類が創りだしたいろいろな文化の解説・紹介・鑑賞、

等とし、広く開講を呼びかけるのが現実的ではあるまいか。これは現状ともマッチしている。今年度教養科目として開講されている授業のシラバスをみると、実にバラエティーに富んでいる。実は、～ はシラバスを眺めての大雑把な分類である。教養科目は、学生諸君に親しみやすい「教養」を提供することで、その責任は十分に果たせると思う。

8学部からなる総合大学として、鹿児島大学全体の教育の力量からして、このような教養科目の充実には不安はないはず。障害は「学内労働基準法」だけである。「共通教育等」特に教養科目は、「全学の教官の協力のもとに実施する」との確認事項を活かし、一人でも多くの先生方に教養科目を担当していただきたい。多数の先生が参加されれば、その負担は軽減されるはず。

学長を委員長とする「鹿児島大学の共通教育等の教官の確保に関する委員会」という頼もしい委員会も発足し、'98年度の教養科目の開設計画はこれからである。広報の紙面を借りて、諸先生方のご協力をお願いしたい。

鹿児島大学の新しい歩み



大きな実験

教養部の廃止、各学部の専門教育が入学時から始まったこと、入学当初から集中的に受けていた教養教育（共通教育）が、原則としては卒業までに受講したらよいこと等々鹿大の新しい教育体制が始まった。

さあこれで実質的に何がどう変わるのでしょうか。教育のように相手あつての仕事はなかなか思うようにいかないのが常である。しかも学生は年々少しずつではあるが、確実に変化している。今度の改革がこちらの予測通りにいくのかいかないのか、どういう結果をもたらすか、それを何で評価するのかなどこれらから長い時間をかけて検討することになるのだろう。いずれにしろキャンパスコミュニティを対象にした大きな実験的取り組みが始まったところである。

私のとまどい

共通教育で「心理学」の講義をしている身として、この4月からの新しい体制への感想がいくつかある。これまで私は青年期の様々な問題、五月病、自分探しなど新入生特有の問題に絞って「悩みは新しく生まれ変わるための陣痛」などと講義をしてきた。ところが、この4月からは2年生を中心に上級生も聴講している。新入生だけを念頭においた講義から方向転換の必要がでてきた。その外これまで、学生は講義を受けてから心理学実験や演習を受講していたのが、順序が違って来た。あれやこれや私のところでも異変が起きておりまだそれに私自身が対応できていない。体制が変わっても、私自身はなかなか変わりよ

医学部 教授 平川 忠敏

うがなく、変化についていくのに大変でもう少し時間がかかる。しかしまあ大変とは、大きく変わると書く、これを機会に大きく生まれ変われるかもしれないと秘かに期待もしているところである。

多様な共通教育を

旧教養部と各学部の教官が共通教育や専門教育を部分的にはあっても相互に担当することは、これは人も替わるので新しいことがやれるのではないかと思う。特に共通教育への乗り入れが活発になり多様な共通教育を準備できれば、現代の若者を取り巻く様々な社会的問題に対して大いなる対応ができるのではないかと思っている。そのためにも予算的にも意識の上でも共通教育への十分な手当が必要であろう。共通教育の脆弱化を私は少し憂えているが、高い山は広い裾野を必要とする。共通教育も専門教育もどちらも大事であることはいうまでもない。

君は鹿大を愛しているか

鹿児島大学のように世帯が大きくなるといういろいろな考えがある。なかなか妥協点を見いだせないときには、「君は鹿大を愛しているか」と自問自答したらよいと私は思っている。そうすることで、自由に意見を述べながらもいろんな問題を超越して、はるかかなたの理想と一緒に追い求めることができるのではないのだろうか。今度のように大きな実験であればこそその結果がでるのは何年もかかるだろう。いい結果を生み出すためにも長い目で大いに「鹿大を愛していきたい」ものである。

共通教育へ期待すること



私は平成8年4月に鹿児島大学に赴任してきたばかりであり、教養部のある大学に在籍した経験もありませんので、教養部が廃止（解体）され、共通教育と呼ばれるものが行われるようになった経緯については知りませんが、戦後50年を経てようやく本来の大学のあるべき姿に近づいたと解釈しています。

学生にとって大学はそれぞれの専門分野を勉強するところですが、これまでは教養部で1年半を過ごした後でそれぞれの学部へ進学し、そこで初めて専門の勉強を始めていました。学生にとっては希望する学部学科へ入ったにもかかわらず、高校の延長のように思われる一般教養の勉強しかできなかつたため、勉学への意欲が殺がれていたかもしれません。実際は現在の高校の教育内容が大学で専門の教育を受けるのに不十分なため、教養部でその基礎を勉強していたのですが、学生には自分が目指す専門分野と教養部での勉強との関係が見え難かつたのではないのでしょうか。

また、目を外に向けてみますと、大学の学部を卒業する学生に対し、社会は幅広い知識と同時に創造性、独創性を強く求めています。もちろん専門知識も重要ですが、現在は専門分野が多くなり、また同時に複雑になっているため、学部の卒業生に対しては高い専門性はあまり要求しなくなっているようです。このような社会状況に対応するためには各専門分野の基礎教育を重視し、学生の多様なニーズに応えられる豊富なメニューを揃え、ゼミや卒業研究などによる知的トレーニングを強化することが必要でしょう。

大学がこれらの内外からの要望を全て実現

工学部 助教授 近藤 英二

するのは容易でないと思いますが、学生に勉学への動機を与えるという点は、今回の教養部の廃止により学生が入学と同時にそれぞれの学部にも所属するようになったことで改善されたと思います。まず1年生から専門の講義を受けられるようになったことです。また私の所属する工学部機械工学科では各教官が1学年あたり5名程度の学生の勉学と生活を指導していますが、今年度から対象を1年生にも広げ、教官と学生との接触によって勉学への動機を与えることも可能になりました。

鹿児島大学はほとんどの主要な専門分野の学部を持つ総合大学ですが、これまで学部間の垣根が高かつたため、そのメリットを十分に生かせなかつたようです。これまで教養部が行っていた講義は、その講義を担当できる学部へ教官とともに移り、共通教育ということで行われています。しかし、共通教育という考え方を廃し、学生が希望する講義を受けるために各学部を渡り歩くという方法があつてもよいのではないのでしょうか。勿論これは教官が適正に配置されるということが前提になりますが、そうすることで各学部間の垣根が低くなり、現在の共通教育以外の講義も学生が自由に受講できるようになることが期待されます。また各学部で開講されている専門分野の類似の講義が整理統合できるとすれば、それによってできた教官の余裕をゼミや卒業研究、あるいは大学院の強化に注ぐことも可能になるのではないのでしょうか。

浅学非才で鹿児島大学のことをまだ十分に理解していない者が勝手なことを並べました。諸賢のご指導をお願い申し上げます。

あまり知られていない獣医師の仕事

農学部 教授 阿久沢 正 夫



最近では獣医学科に入学することを希望する学生が非常に多い。このことは獣医学科のわれわれにとって大変にうれしいことである。しかしながら、入学してから、獣医師のイメージが入学前に考えていたものと違う、と感じている学生もいることを聞いている。そのもっとも大きな理由は、獣医師の仕事が世間によく知られていないからだろうと思う。しばしば誤解されていることは、1) 獣医師の仕事は主に犬猫などのペットの診療である、2) 獣医師の仕事は動物好きの人がやる仕事だ、3) 動物を扱う仕事だから人との関係を離れた、つまり他人との付き合いが嫌いな人でもできる仕事だ、などであろう。獣医師の仕事を知って獣医学科に入学してくれたら、もっと有意義な大学生活が送れるのでは、と考える。

獣医師にとっては、動物を扱うことと同様に、人との関係を滑らかにすることはとても大切である。ペットを診察する臨床家でも、牛や馬などの大動物の臨床家でも、動物の診療をするときは飼い主との対応がうまくできなければ、たちいかない職業である。動物を診察するとき、病気の経過や日常の状態、餌は何かなどの情報は、飼い主から聞き出す以外に方法はない。動物は何も喋れないからである。飼い主からいかに多くの情報を得るか、経験と知識と信頼される人柄が必要である。決して人付き合いの嫌いな人では勤まらない。人との対応がとても重要な職業である。

獣医師の仕事はもちろん動物が嫌いではできない。しかしただ動物が好きでもやっていけない。ときには動物との関係を冷静に考えなければならぬときがある。それは、獣医師が動物の生命を扱う職業だからである。獣医師なら無条件に動物が好きだろうと思っている人がいるが、獣医師の仕事はそのように単純な仕事ではない。人あるいは家畜などに有益でない動物がいれば、これを処分するのも獣医師の仕事である。飼い主のない犬、または飼い主がいても人にかみついて死傷者を出すような事故が起きたときに、これを処分

するのも仕事の一つである。

獣医師の仕事は、1) 臨床。動物の病気を治療する仕事であり、対象は愛玩動物（またはペット、最近では伴侶動物という言葉もある）が世間ではよく知られている。経済動物である家畜（馬、牛、豚、鶏）も診療の対象である。経済動物は、それを飼育し売買して収入を得ることが目的であり、その肉や卵をわれわれが食べるための動物である。2) 公衆衛生の仕事。食肉衛生検査は、食用にするためにと殺した動物が人に有害な病気を持っていないかを調べる。検疫は空港や港で行ない、外国から日本に動物の病気が入ってこないかを調べる。それから狂犬病予防法に基づいて予防注射をしたり放浪している不用犬の捕獲、食堂や飲食店などの衛生検査など。3) 家畜衛生の仕事。家畜の病気を予防して農家の経済的損失をできるだけ少なくする仕事。家畜伝染病予防のためのワクチン投与、血液検査、家畜の餌の検査。4) 医学、獣医学の進歩のため、つまり人や他の動物を救う方法を進歩発展させるために行なう動物実験。これを可哀想だからやめろ、という考えもある。しかし、効果はあることが分かっているにもかかわらず、どんな副作用があるか分からない薬を、われわれは安心して使うことができるだろうか。また、新しい手術の方法を、練習もしないで実施したら、その医者はどれほど非難されるだろうか。不用犬を処分する、動物を実験に使う、牛や豚や鶏を食べる、いずれの仕事も動物の死を扱う。また、人が生きていくためには不可欠の仕事である。しかし、牛や豚や鳥を殺すのが可哀想だといって、肉を食べないで生きてはいけぬし、また、子供を傷つけたりかみ殺したりした動物を、そのまま放置しておくわけにはいかない。

獣医師の仕事は、小動物臨床のように華やかなものもあるが、一方、公衆衛生や家畜衛生などの縁の下の力持ちのような、地味な仕事をしている獣医師の数も少なくないのである。

鹿児島大学の新しい歩み



今回の大学改組のキーワードは、理学部・教育学部・法文学部の充実、教養部教官の意志の尊重、移籍教官と専門教官との間の2重構造の回避、全学出勤方式、4年一貫教育でした。その結果、移籍教官の多い学部では共通教育に対する軽視傾向が強まり、移籍教官の少ない学部の負担が多くなるなど不平等感が出てきております。したがって、本年度の鹿大評議会の最大の課題はこの改組の事後処理です。

このような中で、移籍教官がたった2名という水産学部でも状況改善へ向けての模索が続いています。それは普通高校からの推薦入試制度を廃止したこと、入学直後のオリエンテーションを強化し、乗船実習基礎を全学生に課したこと、4年一貫教育及び共通教育の充実を目指して、専門教官が1・2年生の教育に積極的に従事し始めたこと、外国人教官（助教授）を初めて採用したこと、全学改組に便乗して暫定的な学部改組を実現したこと、平成10年度の大学院入試からTOEFL点数の提出を課し、それを支援するための課外活動として、月曜日から土曜日まで放課後2時間外国人3名を含む英語講師7名を動員した「TOEFL講座‘HOPE’」も始まったこと等です。

全国の国立大学に先駆けて「普通高校からの50%推薦入試」で始まった本学の推薦入試制度は、受験校に悪用され留年生が急増しました。しかし、その制度撤廃後、鹿児島県内合格者は30%、県外合格者は70%と県内と県外の合格者の割合が逆転し、教室の雰囲気も活発となり、留年生の増加にも歯止めがかかりそうです。

乗船実習を含む入学直後のオリエンテーションの強化は学生に全国でも数少ない「海か

水産学部 教授 松田 恵 明

らの発想」を重視する練習船を持つ水産学部生であるというアイデンティティを持たせ、勉学意欲をかきたて、既に平成8年度入学生の2人は本年度中に留学を予定しています。

現在、水産の専門科目は入学当初から毎学期5科目ずつ開講されており、その受講率も高く、専門教官とのコミュニケーションが頻繁に行われるようになり、4年一貫教育の実はあがっています。また、共通教育関係で水産学部教官は教養科目4コマ、基礎教育科目1コマ、情報科学科目1コマ、開放科目8コマ、英語5コマを担当しております。

平成8年10月に初めての外国人教官（中国人）が海洋社会科学分野で採用されました。これを機に今後約30名の留学生および30%を占める女子学生対策としても、生物・化学・物理・工学等各分野でも1名ずつ以上の外国人及び女性教官の採用が望まれます。

今回の学部改組では従来の19小講座が5大講座（環境情報科学、漁業基礎工学、海洋社会科学、資源育成科学、資源利用科学）に、教育システムの8専攻制が3コース（総合、環境、資源）制に改変され、教育研究システムの統合化が図られました。

水産系の国際化対応人材の養成は当学部の緊急課題です。しかしながら、これまで学生は英語に弱く国際化どころではありませんでした。このような事態を憂慮した民間団体の協力で、徹底的な実用英語教育が1年前から始まり、準備期間が終了し、本年10月以降本格的なテスト（目標：水産から平成11年3月以降TOEFL550点を持つ卒業生を毎年10名ずつ出す）が実施されることになりました。

このように、水産学部も新しい歩みを始められています。

新入生のこ と ば

鹿児島大学に入って



今年の春、第一志望だったこの鹿児島大学に合格することができた。

合格発表の日は大学まで出かけ、合格番号を自分の目で確かめるまではとても不安であった。掲示板に合格番号が掲示され、自分の受験番号を見つけたときは本当に嬉しかった。

こうして入学した大学だが、やはり国立大学の建物には明るさがないように感じる。これは前々から解っていたことだから失望はしなかった。しかし、逆に喜ばせてくれたのは、今年新しくなった立派な図書館であった。図書館の広さと蔵書の数の多さにびっくりし、又、これから蔵書が増えるというから驚きだ。この立派な図書館を4年間フルに活用していきたいものである。建物といえば、医学部が

法文学部 法政策学科 坂上 学

どこにあるのかまだ知らないというのが心に引っかかっている。

さて、講義の方はというと、まだ専門の授業があまりなく、大人数の共通教育が中心なので、本で読んだり、人に聞いたりして想像していたのとはちょっと違う。でも、大人数なので、友達はできやすいと思う。しかし、2年、3年となるに従って講義もだんだんと専門的なものになっていくのだろう。そのときこそ、自分が将来を考えて選択した、自分のやりたいことができるときだろう。今からそのときが楽しみだ。

これから過ごす大学生活たのしいこともつらいこともあるだろうけれども、自分で望んで選んだ道だから、あきらめることなく夢が叶うように努力したい。

夢の種



早いもので、鹿児島大学医療技術短期大学部作業療法学科に入学してから、もう3カ月が過ぎました。入学当初は、生まれて初めて親元を離れての一人暮らしや慣れない土地で知り合いが全くいない学校生活だったので、不安で一杯でした。しかし今では、自炊や学校生活にも少しずつ慣れてきました。また、作業療法学科は1年生が20人しかいないということもあって、全員仲が良く、みんな良い人ばかりで、楽しい日々を送っています。

私は小さい頃から人と接することが大好きで、ずっと「誰かの役に立てる仕事に、誰かの支えになれる仕事に就きたい」と思っていました。そして中学の時に「作業療法士」という仕事を知り、それ以来「作業療法士」を目指してきて、この学校に入学しました。医技短の授業カリキュラムは思っていた以上にびっしりと詰まっていて、月曜から金曜までほぼ毎日午前9時から午後6時まで授業があります。1年時ではまだ専門科目は少ないの

医療技術短期大学部 作業療法学科 工藤 安澄

ですが、授業を受けてみて、今改めて「作業療法」の奥深さを感じています。

また、人との関わりの重要さも感じています。医療従事者だけに限らず、どのような仕事でも周囲の人達との関係はとても大切です。世の中には色々な人がいて、様々な価値感が溢れています。自分とは違う考え方を拒絶するのではなく、「そういう考え方もある」と受け入れていくことが大切です。そのために必要な、物事を広い視野で見ることのできる目や他への思いやりと協調性は、その大部分を学校生活の中から学んでいくものだと思います。3年間の学校生活の中で、どれだけ自分を人間的により大きくできるかが私自身の課題です。自分で見つけた夢の種だから、途中で枯らしてしまわないように、近い将来大きく実らせることができるように、大事に育てていきたいです。そしてそのために、一日一日を大切にしていこうと思います。

学内だより



保 健

うつ病



保健管理センター 助教授

上 山 健 一

〈はじめに〉現代はストレスの多い社会環境であるといわれます。そうした中で、うつ状態とりわけ軽症うつ病の増加が臨床の現場から指摘されています。うつ病は古代ギリシャ時代より知られていましたが、19世紀に至り近代精神医学の発達につれ、精神分裂病とともに概念の体裁が整いましたが、成因など未解明の部分も多いのが現状です。

〈成因〉脳内のモノアミン受容体の機能異常仮説がいわれてますが、充分明らかではありません。

〈症状〉うつ病とは基本的にはうつ状態を主体にした症候群であり、うつ状態すなわちうつ病とは限りません。うつ状態になると、以下のような精神状態が認められます。

- 1) 感情：気分がふさぎ、不安、焦燥感、悲哀感がある。はつらつとした感情が湧かず、現実感が乏しい。このような気分が1日のなかで変化する(たとえば午前中は憂うつだが午後になるといくらか気分が晴れる)。
- 2) 意欲：気力が湧かず仕事への意欲を失い、動作が緩慢になる。他人と会話することが苦痛で、身の回りのことに億劫になる。
- 3) 思考：思考の抑制があり、注意力・集中力が低下する。何事につけ虚無的・絶望的になり「どうでもいい」と思う。
- 4) 希死念慮：どこか遠くに行きたい、一人きりになりたいと思い、うっすらと自殺を考へるようになる。

このような精神状態に陥るとともに以下の身体症状が認められます。

- 1) 倦怠感：どこかということのない漠然とした脱力感、疲労感があり、体の調子が悪い。
- 2) 睡眠障害：入眠は比較的容易であるが、午前2時とか3時に覚醒し、以後眠れず、熟眠感がないパターンが多い。
- 3) 疼痛：痛みとして出現する部位は頭痛・座骨神経痛・腰痛・前胸部痛などである。

4) 消化器症状：食欲不振ならびに体重減少がみられ、口渇・悪心・胃部不快感などがある。

5) その他：めまい・冷感・性欲低下などがみられます。

最近では上述のように定型的精神症状が前面にみられず身体症状を主な愁訴として内科や外科を受診する仮面うつ病(本当はうつ病であるが内科疾患や外科疾患の仮面をかぶっているため、自らはそれと気付かない)が増加しており、精神症状が遷延化する例もよくあります。

〈性格〉このようにうつ病になりやすい三つの性格として第一は、ちょっとした失敗で、すぐにすべてが否定された気持ちになり、常に自分を悪いと考える否定的自己評価、第二は周囲の人の評価にいつもびくびくする対人過敏、第三は几帳面で何でも完全にやりこなさないと気が済まない完全癖です。このような人は仕事熱心で正義感が強く、ごまかしやズボラができない模範青年、模範社員として周囲から期待されていますが、このような三つの性格傾向をチェックし、義務や規則に縛られ過ぎず、自然で柔軟な感情・思考に是正していくことがうつ病にならないために必要です。

〈治療〉うつ病の人は怠けているわけではなく、身体的基礎を持つ病気であり、休息が必要であることを周囲が理解し、「頑張れ」と激励することは逆効果であり、「疲れを癒す」ように助言することが大切です。

症状によっては、入院が必要であったり、抗うつ薬(抑うつ感の解消、欲動の正常化、不安・焦燥感の除去作用などがある)の服用が必要になりますが、いづれにしても症状は直線的にとれるのではなく、一進一退のように見えながら、薄紙を剥ぐように少しずつ改善し、必ずよくなる病気です。



Kagoshima University Student Life is in My Heart Forever

医学研究科 ジャリル モハマド アブドゥル (バングラデシュ)



Japan is a developed country, its economy and advancement in technology attracts students from many other countries. Japan provides foreign students with many opportunities to study in different universities. Therefore, as a Bangladeshi student, I preferred to come to Japan for higher study in the First Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Kagoshima University.

First of all, I would like to express my thanks and gratefulness to my professor Takeyori Saheki for his kindness in giving me the great opportunity to come Japan with the Scholarship of Monbusho. This is a great opportunity for me to study abroad. I am proud to introduce my supervising teacher Dr. Masahisa Horiuchi and I would like to express my heartfelt thanks to him for his excellent guidance and kindness.

Teacher and student relationships are universal. During the period of my study in Kagoshima University I have had the opportunity to establish an unforgettable relationship with the teachers of the Faculty of Medicine. The sincerity of Japanese teachers to foreign students helps to acquire the knowledge in the particular field. I sincerely hope that I will be able to complete my studies in Japan successfully under the excellent cooperation of my honourable teachers.

After coming to Japan, I feel that my life has been very much enriched because I am learning many new things, I can have experiences in research, in different language and culture and with friends from different countries. All of us are representing our country and culture. So, we have a rare chance to know the great diversity of culture and mankind.

For research purposes in this academic life we are getting the available laboratory facilities system and all kinds of enormous facilities available within the university. It is a great opportunity for the students to do research smoothly and to upgrade their research skills. For this researchable environment we give thanks to the authorities of laboratory, faculty, university and to the Japanese Government for offering us this opportunity to make use of the facilities and enable us to best use our abilities. I believe that this academic knowledge in Japan will be beneficial to progress into our future lives. So, this study period in Kagoshima University will be a significant foundation for my career.

It is very important to learn the Japanese language efficiently enough to understand everything. I tried to learn Japanese but my ability is still limited to only a little and it is not enough for me to understand the various seminars, lectures and discussions in Japanese. When it will be possible to overcome this language barrier, I'm sure student life will be smoother in the university.

Besides studies and research, the general life in Kagoshima is very peaceful. People are always cooperative and are ready to help if we face any problems. The Japanese people are very hard workers and everywhere their service is excellent. Everyday life is going peacefully.

The scenic beauty of Kagoshima and the beauty of Mt.Sakurajima are very impressing. It is very difficult and I find it is not fair to comment more than I have done because of my short period of experience in Kagoshima.

I am personally grateful to the all teachers and members of the First Department of Biochemistry and I received excellent cooperation from them and I hope they will continue their efforts in the future also. Thanks to all who have given me this chance to write about the student life in Kagoshima University and again thanks to the people and the Japanese Government for giving us this opportunity. May Allah (God) help us.

私の歩み

工学研究科 付 子勲(中国)



東の空に朝日が昇るとともに、噴煙をあげている桜島が目にはいりました。新しい一日も同時に始まりました。パンと牛乳を私の胃に流しこむと、私は自転車に乗って研究の旅へ出発します。

私の研究分野は大電流、高電圧を制御する半導体素子を用いて、電気エネルギーを効果的に利用し、電気機器の制御を行うパワーエレクトロニクスと呼ばれるものであります。現在、研究テーマは「平滑回路なし電圧形インバータ」です。インバータ技術はだんだん産業応用から民間生活に広がっています。例えば、冷蔵庫、エアコン、蛍光灯、人工噴水などがあります。最近、テレビでのコマーシャルも「インバータ」を使っています。われわれは研究者として現代の高い科学技術を電気電子設備で人々の生活条件の改善に貢献しています。

現在、世界中のインバータについての主な研究焦点は高調波、無効電力、駆動系の動的

特性であります。それについて、今日は通常の電圧形インバータの直流リンク部の平滑回路を離れた場合、インバータシステムの入力高調波と力率の改善に応じるプログラムを作ってシュミレーションをやりました。いろいろなインバータのPWMコンバータ制御方案と制御条件をチェンジしたり、コンピュータで計算したりすることを数十回繰り返しましたところ、いい結果が得られました。

一日中ずっとコンピュータの前に座っていた私は疲れました。でも、とてもいい気持ちでした。ストレス解消のため、私は自然に両手を広げて窓から空を見ました。朝昇った太陽、燃えている桜島はもう見えませんでした。

私は留学生として異国の鹿児島大学で研究を行っています。時間が変わらず、太陽も変わらず、夢も変わらず、違うところは、私が日本政府の恩恵、鹿児島の人々の友情を持って、毎日楽しく私の時間、私の太陽、私の夢を追いかけ続けていることです。

図書館だより



中央図書館の日曜開館実施について

中央図書館では本年4月に新館が開館して以後、入館者数も増加の一途を辿っており、利用者の方々の図書館に対する関心の高さを示しています。

このたび、利用者の方々に図書館をより広く利用し、大いに研究・学習に役立てていた

だくため、かねてから要望のありました日曜開館を実施することになりました。

実施内容は下記のとおりとなります。なお、今後の開館スケジュールにつきましては、中央図書館入口の掲示をご覧ください。

記

1. 開始時期：平成9年9月14日(日)より
2. 開館時間：10:00~17:00
3. サービス内容：貸出・返却、文献複写など

備考1. 「国民の祝日に関する法律に規定する休日」が土曜日・日曜日の場合は、開館します。

2. 学則に基づく各季の休業期間及び3月中の土曜日・日曜日は、原則として休館します。



研究室紹介

歯と顎のディスクレパンシー

歯学部歯科矯正学講座 教授 伊藤 学 而



ディスクレパンシーと言うのは、矛盾、不一致、食い違いという意味の言葉です。歯の大きさと歯が生える顎骨の大きさに食い違いがあると、歯はきれいに配列できなくて歯並びや噛み合わせが悪くなります。

歯並びや噛み合わせの整っていない状態を、歯科では不正咬合と呼んでいます。不正咬合を作り出す要因には、歯と顎のディスクレパンシーのほかに、上下の顎骨のディスクレパンシー、噛み合わせたときの顎のずれ、唇や舌の癖、歯の形成異常などがあります。様々な不正咬合はこれらの要因の組み合わせによって決まりますが、要因のうちで最も多いのが歯と顎のディスクレパンシーです。

不正咬合の頻度は、今の日本人で6割から7割程度と推定されます。不正咬合があると単に口もとが整っていないだけでなく、歯肉炎、齲蝕、顎関節症などの歯科疾患にもかかりやすいとされています。そこで私達の研究室では、歯と顎のディスクレパンシーを中心にして、その成りたちや影響に関する調査や動物実験を行ってきました。

昔も今のように歯並びの悪い人が多かったのだろうか。まず、この素朴な疑問を確かめるために、東京大学、京都大学、九州大学、長崎大学に保管されている日本人古人骨の標本を調べました。その結果、顎骨の大きさは時代が下るにつれて小さく華奢になり、これに伴って不正咬合の頻度も縄文時代の22%から江戸時代の56%へと増加し、歯科疾患の罹患状況も時代によって変動していることが確認されました。

この原因はおそらく食生活の変遷にあると考えられましたので、全国6地区において、昭和元年生まれから40年生まれまでの5世代について、食生活と歯や顎骨の大きさ、不正咬合との関連を調査しました。地域による差はありますが、昭和30年生まれ世代以降、食生活が大きく変化し、それが顎骨の大きさ、歯と顎のディスクレパンシー、不正咬合に影響を及ぼしていることが確かめられました。このことは、その後に行ったオーストラリア、

ニュージーランド、ケニアにおける調査でも確かめられております。

そこでマウスに固形、練状、液状の飼料を与えて離乳直前から成長終了まで飼育し、頭蓋、顎骨、顎関節、唾液腺、歯の磨耗、顎の動き、顎筋の筋線維、顎筋の筋電図などを調べました。結果として、飼料の性状が違えば上記の全ての発育に影響が及び、特に液状飼料で飼育した場合には咀嚼や嚥下の発達が阻害され、臼歯で咀嚼しないために歯の磨耗は少なく、顎骨は細く華奢で、顎筋の筋線維は疲労しやすく、歯ぎしりなどの習癖がおり、唾液の分泌が低下し、顎筋の協調性が劣ることが確かめられました。また生育途中で飼料を変更しても、十分なキャッチアップができにくいことも確かめられました。

これまでの研究から、現代の食生活が乳幼児期からの口の機能と顎骨の発育に遅れとアンバランスをもたらす、それが不正咬合だけでなく、咀嚼、嚥下、唾液分泌などの生理機能の発達にも重大な影響をもたらすことが明らかになりました。これらのことが疫学調査と動物実験によって裏付けられたことは、世界的にも初めてのことであります。

咀嚼、嚥下、唾液分泌などの機能が十分に発達しなければ、口内細菌が過剰に増殖して齲蝕や歯肉炎にかかりやすくなることは容易に考えられます。また顎関節や顎筋の発達が低く、しかも歯ぎしりなどの習癖があれば、顎関節症にもかかりやすくなります。今は食生活とこれらの歯科疾患や顎機能障害との関連について、研究を進めているところです。



新任教官紹介

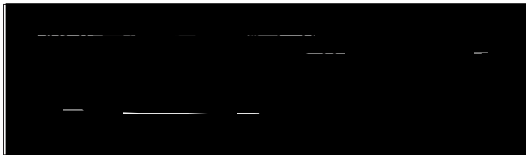
平成9年4月1日から平成9年6月30日までの間に就任された教官（講師以上）は次のとおりです。



（教育学部講師国語教育）



（担）国語学特講、古典文学講読、国語史概説



くぼ たやすひろ
久保田康裕
博士（理学）

（教育学部講師理科教育）



（生）昭和41年10月23日
（学）東京都立大学大学院理学研究科博士課程
（前）日本学術振興会特別研究員
（担）植物生態学、植物生理学、生物学実験

新たな気持ちで教育・研究に頑張りたいと思っています。

いとう ゆうじ
伊東 祐二
博士（薬学）

（工学部助教授生体工学科）



（生）昭和37年1月9日
（学）九州大学大学院薬学研究科製薬化学専攻博士後期課程
（前）九州大学助手大学院薬学研究科
（担）分子生物学特論

生体機能物質（蛋白質など）を工学的にさらに改変することによって、医療や環境問題に役立つものづくりをやりたいと思っています。

やすやま のりゆき
安山 宣之
MASTER OF ARCHITECTURE 一級建築士

（工学部助教授建築学科）



（生）昭和17年8月24日
（学）ペンシルヴァニア大学大学院芸術学部建築学専攻
（前）株式会社安山宣之の建築設計事務所代表取締役
（担）建築設計、建築設計、デザインプログラム、デザインプログラム、空間デザイン特論

建築家として設計の実務に従事していたキャリアを生かし、実践面より建築設計を指導し、加えて郷土の環境整備のお役に立てればと考えています。

いわもと いずみ
岩元 泉
農学博士

（農学部教授生物生産学科）



（生）昭和24年8月11日
（学）九州大学大学院農学研究科博士課程
（前）九州大学農学部助教授
（担）農業市場学、農産物貿易論、農業市場学特論

農業が大きな比重を占める鹿児島県をフィールドの中心にし、「地域」志向で研究活動を行い、アジア的空間で思考してみたいと思っています。

てらおか ゆきお
寺岡 行雄
博士（農学）

（農学部講師生物環境学科）



（生）昭和40年8月10日
（学）九州大学大学院農学研究科博士後期課程修了
（前）九州大学農学部附属演習林助手
（担）森林計測学、森林航測論、森林計測学実習、森林計測学特論

学生とのふれあいを大切にし、バランスの取れた教育・研究を目指したいと思っています。

ろう しょう は
□ 小 波 (水産学部助教授水産学科)
博士(農学)



(生)昭和37年9月12日
(学)京都大学大学院農学研究科博士後期課程
(前)近畿大学農学部講師
(担)海洋社会文化論、海洋社会環境論

海洋の広さから日本を測ると鹿児島は国の地理的中心となる。この海の視点から教育・研究活動に取り組んでいき、海洋社会の魅力を学生たちと分かち合いたい。

やすかわ じんこ
安川 仁子 (医療技術短期大学部教授看護学科)
文学士



(生)昭和16年10月10日
(学)東洋大学文学部教育学科
(前)国立療養所山形病院附属看護学校教育主事
(担)看護学概論、基礎看護実習、基礎看護技術

古いものを出さなければ、新しいものは入らないをモットーに、自分の思考の枠組みを柔軟にして、学生の教育と研究に取り組みたいと考えております。



就 職

学生部 厚生課長 淵 上 勝 躬

1. 就職協定の設定から廃止まで

企業の新規学卒者獲得のため過度の競争による「青田買い」を防止し求人秩序を確立するための「就職協定」は、産業界、大学側の双方から出された意見・要望のすり合わせの結果として、1972年（昭和47年）から毎年継続して公表されてきました。その「就職協定」について、1996年10月に発せられた日経連代表の「守られないなら廃止も辞さない」との発言がきっかけとなって、同年12月4日に日経連は「就職協定を廃止し、自主的な指針に移行する」ことを決定しました。これをうけ同年12月付けで、企業側代表世話人根本二郎氏の名で「新規卒業者採用選考に関する企業の倫理憲章」を発表しました。これに対応して大学関係者で構成している就職問題懇談会は「平成9年度大学及び高等専門学校卒業予定者に係る就職事務について（申合せ）」を平成9年1月17日付で発表しました。以上の経緯から、本年度（平成9年度卒）の採用（就職）活動は、産業界の「倫理憲章」と大学側の「申合せ」という大枠の中でのことですが、従来の就職協定は24年ぶりに廃止され、事実上自由競争となりました。

2. 本学の最近の就職対策

就職問題懇談会の設置とその動向

本学卒業生の就職状況は右記のとおり、氷河期（平成6年度）超氷河期（平成7年度）の就職率は75.9%、76.5%となっています。平成8年度は前年度の景気に比べて、若干薄日がさした状況といわれましたが77.9%となっています。この間に、本学では、大学改革（教養部廃止）を推進することと並行して、学生の就職問題も重く受けとめ、平成7年12月に全学組織の就職問題懇談会を設置し、各学部単位で実施することが困難な全学的就職問題を検討することになりました。委員は各学部2名（医・歯学部は各1名）で座長は学生部長が担当することにしました。同懇談会

では、平成8年12月に学生のための就職ガイドブック「進路」（1997年版）を初めて発刊し、平成9年度の全在學生に配布しました。

平成9年5月に、本年度第1回の就職問題懇談会を開催し、本年度は「進路」を更に充実させ引き続き、1998年版を発刊することと、SPI模擬テストを実施することが決定・承認されました。又、平成9年5月には、就職協定廃止後の学生の就職活動をサポートするため「就職情報コーナー」を学内に3箇所（附属図書館、桜ヶ丘分館、水産学部分館）開設し、学生部厚生課にサーバーを置き、厚生課で就職情報の更新等のコントロールができるようにしました。

このコーナーでは、学生がインターネットを利用することによって、講義の合間を利用し、大学に居ながら、パソコンを操作し、企業のホームページをのぞき、今後多様化する就職（求人）活動環境の変化に敏速に対応できます。

5月中旬、本コーナーを設置以来、学生の利用は後をたたない盛況を呈しています。担当課としては機器の故障時の機敏な対応と情報の更新への気配り、目配りを重要課題としてとらえています。

就職問題懇談会では以上のような活動の他に、本年度も学生の就職ガイダンス開催等、就職を促進するための諸方策の実施について検討を続けていく方針です。



卒業時就職状況調べ(過去4年間)

学部

事項	年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
卒業者総数		1,627	1,624	1,635	1,821
進学者数		400	330	382	360
就職希望者数		1,219	1,287	1,251	1,447
求人件数		8,495	5,141	4,535	4,700
就職者数		1,032	977	957	1,127
就職希望者就職率		84.7%	75.9%	76.5%	77.9%
各 地 区 別 就 職 先 内 訳					
鹿 嶋 県		506	516	473	607
九 州		217	188	226	249
阪 神		48	81	60	81
東 海		27	25	20	24
京 浜		199	158	173	162
そ の 他		35	9	5	4
計		1,032	977	957	1,127
業 別 就 職 先 内 訳					
農・林・水産業		27 (1)	15 (1)	14 (2)	8 (3)
鉱・建設業		62 (8)	106 (15)	97 (18)	110 (25)
製造業		217 (36)	188 (51)	165 (31)	213 (47)
販売・小売業		46 (17)	34 (7)	75 (25)	57 (25)
金融・保険業		54 (20)	45 (15)	50 (14)	78 (32)
不動産業		2 (1)	7 (5)	2 (1)	5 (2)
運輸・通信・電気・ガス等		33 (5)	35 (6)	37 (7)	34 (11)
マスコミ関係		16 (6)	13 (7)	15 (5)	12 (6)
医療・非営利団体等サービス業		132 (59)	93 (43)	139 (66)	168 (80)
教 員		224 (124)	245 (107)	207 (99)	263 (123)
公 務 員		209 (68)	165 (55)	143 (56)	169 (59)
そ の 他		10 (1)	31 (8)	13 (1)	10 (3)
計		1,032 (346)	977 (320)	957 (325)	1,127 (416)

1. 上記表中()内は、女子学生の人数。
2. 各年度、10月卒業生を含む。
3. 就職率以外 単位は人。
4. 各卒業年の5月1日現在で集計、ただし平成8年度は7月1日現在。
5. 医学部、歯学部は除く。

卒業者進路状況調べ(過去4年間)

医療技術短期大学部

学科名等	年 度	卒 業 者 数	進 学 者 数	就 職 状 況					そ の 他
				鹿 大 病 院	その他の病院・ 診療所等		市町村・保健所		
					県内	県外	県内	県外	
看護学科	5	74	34	12	9	19	0	0	0
	6	75	37	13	9	15	0	0	1
	7	80	31	9	13	25	0	0	2
	8	79	24	16	14	16	0	0	9
理学療法学科	5	19	0	0	13	5	0	0	1
	6	20	0	0	15	5	0	0	0
	7	20	1	1	13	5	0	0	0
	8	19	2	0	7	9	0	0	1
作業療法学科	5	19	0	0	8	11	0	0	0
	6	18	1	0	10	7	0	0	0
	7	20	0	0	13	7	0	0	0
	8	21	0	0	12	9	0	0	0
助産学特別専攻	5	18	0	5	5	8	0	0	0
	6	22	0	3	9	9	0	0	1
	7	20	1	8	5	6	0	0	0
	8	20	0	3	9	8	0	0	0
地域看護学特別専攻	5	20	0	4	1	0	10	5	0
	6	20	0	1	2	6	6	5	0
	7	20	1	6	2	5	6	0	0
	8	20	0	1	0	5	11	3	0

各卒業年の5月1日現在で集計

インターネット情報



下記の図はインターネット上に公開されている鹿児島大学のホームページです。
WWWブラウザにて開くことができます。(<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>)



What's New

[大学案内] [学内のWWWサーバへ] [ネットワークサービス]

[掲示板]

ENGLISH

このホームページは鹿児島大学のホームページです。
このホームページに関するご意見・ご感想は www@kagoshima-u.ac.jp までお願いします。

Copyright(C)1996 Kagoshima University

■編集後記

鹿児島大学広報（第145号）の編集にあたって、平成9年度より従来の広報紙の発行部数を若干削減し、その代わりインターネットホームページを開設することとなった。ホームページの開設については教官からなるワーキンググループのボランティアに依存することになったが、多忙の折、まことに感謝の念に耐えない。鹿児島大学の姿勢を市民一般に公開して、よりよい大学への転換について叱咤激励を期待し、また、いま動いている大学の状況を学生・教官へ周知させることは無論であるが、『開かれた大学』をモットーに、市民とのコミュニケーションをより深めることを目的とした。

本年当初から新聞紙上を賑わした鹿児島大学教育システムの改革がこの4月からスタートした。この改革は教養部の解体、ひきつづき従来の教養部での教育を共通教育へと転換、教員および事務官の人事・再配置、など開学以来の大変革であった。この改組がスタートしてすでに3か月が経過した現在、学生諸君はどのように感じているのか、また、実

際新制度のもとで共通教育に携わっておられる教官の方々の感触、学長はじめ各学部長等の感じておられることなどを率直に書いていただくことにした。これらの記事が、組織改革の更なる発展への礎石になれば幸いである。

(理学部 東 四郎)

■広報委員会委員

東 四郎(委員長・評議会) 西中川駿(評議会) 金丸 哲(補導協議会) 石川英昭(法) 永松實夫(教育) 中島正治(理) 出雲周二(医) 大工原恭(歯) 村島定行(工) 秋山邦裕(農) 手島新一(水) 濱田博文(医短)(印は第145号の編集委員)

鹿大広報 第145号

平成9年9月10日発行

編集・発行

鹿児島大学広報委員会

住所：鹿児島市郡元1丁目21番24号

電話・FAX：099 285 7035・7034

印刷：斯文堂(株)